

苫小牧市民自治推進会議（平成27年度第3回）会議録

開催日時 平成27年10月23日（金）午後6時30分～午後8時30分
開催場所 苫小牧市役所9階 第2委員会室
出席委員 谷岡会長、小山田副会長、川島委員、喜多委員、栗山委員、佐藤委員、
志方委員、水口委員、山田委員
欠席委員 廣島委員
町内会
出席役員 柏木町町内会（辰田副会長、藤野総務部長）
日新町町内会（田村会長、松尾社会部長）
事務局 市民自治推進課長（加賀谷）、市民自治推進課長補佐（中村）、
市民自治推進課主査（吉田）
説明員 市民生活課長（石井）、市民生活課主査（猿田）、市民生活課主事（寺口）
報道機関 苫小牧民報社
傍聴者 なし

1 開会

○事務局（加賀谷市民自治推進課長） それでは、皆さん、お晩でございます。本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、苫小牧市民自治推進会議を開催させていただきます。本日、廣島委員は、欠席ということで連絡がございましたので、御報告させていただきます。

前回ですね、会議の中でもお話させていることではあるのですが、本日の会議では、実際に町内会の方から、町内会の現状ですとか取組等について、お話をお聞かせいただきたいということで、今日は柏木町町内会の方と日新町町内会の方にお越しいただいておりますので、私の方から御紹介させていただきたいと思っております。

【町内会出席者の紹介】

○事務局（加賀谷市民自治推進課長） 町内会の皆様、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。それでは、谷岡会長よろしくお願ひいたします。

●谷岡会長 本日は、御多用のところ皆様にお集まりをいただきましてありがとうございます。また、柏木町町内会、そして、日新町町内会の会長さんや各総務部長さんとか、副会長さんも、お忙しい中、私どもの会議のために御参加をいただきましてありがとうございます。

私どもは、いわゆる町内会との協働ということで、どのような形が採れるかということの一つのテーマにして、いろいろと会議を進めております。ですから、今回は、じかにその町内会のお話を聞きながら、いろいろな形でこの会議がより一層進めばいいなあという具合に思いますので、皆様方のいろいろな御意見を知っていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひをいたします。

それでは、会議次第により、(1) 市と町内会との協働について、事務局から説明をよろしくお願ひをいたします。

2 会議

(1) 市と町内会との協働について

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは、本日の会議の進め方について御説明させていただきます。先ほど、課長の加賀谷からも話がありましたが、町内会の皆様から町内会の現状や取組について、お話を聞かせていただくということになっております。

それぞれの町内会様から資料を提出いただいておりますので、まず、資料を御確認いただきたいと思います。

柏木町町内会様からの資料ですが、会議次第を1枚めくっていただきまして、タイトルに「町内会活動の現状について」と書かれた両面で4ページの資料、こちらの資料になります。続きまして、「柏木町町内会町内会館利用予定表」と書かれたこちらの資料になります。こちらが、柏木町町内会様からの資料ということになっております。

続きまして日新町町内会様からの資料ですが、タイトルが「フィールドサポーター活動について」と書かれた真ん中の方にカラーで写真が掲載されている資料になりますが、こちらの資料になります。

提出いただいた資料の他ですが、それぞれの町内会様の総会議案書と、前回の会議で御報告したアンケート調査票の回答を参考資料として配布させていただいております。資料の中でクリップ留めしてある資料が束になったものがあるかと思いますが、初めに柏木町町内会様のアンケート調査票と総会議案。次に、日新町内会様のアンケート調査票と総会議案と続いて、クリップ留めされております。一番後ろにも資料が付いておりますが、こちらの資料はその他のところで説明させていただきたいと思います。

会議の進行ですが、初めに柏木町町内会様からお話をいただきまして、終了後に委員の皆様からお話の中で気になった点や、配布資料で気になる点などを質問させていただきたいと思います。質疑の終了後、席を移動していただきまして、日新町町内会様からお話をいただき、終了後に同じく委員の皆様から質疑という形で進めていきたいと思います。

本日は2つの町内会様にお越しいただいておりますので、事例発表と質疑終了まで、概ね目安として50分程度というふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、谷岡会長、よろしく願いいたします。

【柏木町町内会活動の現状、具体的な取組等について（事例発表）】

●谷岡会長 では、初めに柏木町町内会様から町内会活動についてお話をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◎柏木町町内会（辰田副会長） はい。このレジュメに書いてあるとおり、主なところを説明したいと思います。

柏木町内会というのは、来年で30年を迎えます。で、その前は糸井北区第4町内会という町内会で、今から20年前に宮の森と川沿と柏木ということで、3つに分かれました。それから30年ということがございます。現在の会員数は1,610世帯、約柏木町の世帯のおよそ3分の2が加盟（町内会に加入）しているということで、3分の1は未加入ということです。まあ、ここに収入なども書いておりますけれども、毎年150万の町内会館の建設資金として蓄えておりまして、それを抜くと、毎年、若干の赤字と。まあ、今年は、26年度は9万円の赤字ということがございます。まあ、まあ、経済的には若干の赤字と言いましても、建設資金を蓄えておりますので、恵まれている方かなというふうに思

います。

現在の役員体制については、214名ということで、ここに書かれているとおりのいろいろな役職がございます。役員の報酬につきましては、部長と区長は年間5,000円。それから、班長と会計副部長は毎月の集金、集計など忙しいということで1,000円のギフト券ということであります。なぜか、会長、副会長は、報酬はありません。それで、町内会館につきましては、これは昭和50年に地主から寄贈されまして、まあ、今、あの、大分、痛んでおりまして、建替えの話などを進めておりますが、現在、先ほど3千万円ぐらい貯まっているということ言いましたけど、同程度のことをやりますと、6千万くらいかかるんじゃないかという建築業者の見積でございまして。まあ、町内会としては、耐震の問題もありますし、ちょっとの間は修理をしながら様子を見ようということになっております。

町内会の取組につきまして、うまくいっているのかというところですが、まあまあ、うまくいってるんじゃないかと思えます。その理由として、会長始め、ボランティア精神の強い役員、みんな個性がありますけど、一生懸命、町内会のためにやってくれているということでもあります。また、毎月1回、副部長、副区長も含めた役員会も行っておりまして、その他に4役会又は臨時の4役会などをやっております。

会員には、月1回の回覧板を出しております。この回覧板は、今年だったか去年だったか、道内で3番目という賞をもらいました。後の二つの賞も、全部、苫小牧ということで、苫小牧はそういうことにかけては、いろんなこう、写真を使ったり。私はパソコンのことはよく分かりませんが、うまいのかなというふうに思っております。

それから、町内会の配布だとかいろんな市役所からの配布資料等につきましては、3年くらい前までは班長さんがやっておりましたが、非常に負担が重いということで、まあ、たまたま苫小牧民報の販売店が柏木町にありますので、そこに委託して班長の回覧物といえますか、そういうものの配布はほとんど0になりました。回覧板だけは班長さんがトップになって渡して、回収するというところでございます。

町内会と連携している団体として、これほどこの町内会にもあると思えますけども、老人クラブがあります。だいたい今100人くらいの会員がおりますけども、これには町内会から27万円の補助をしております。

それから、安全安心パトロール隊と。これは、小学校の、川沿町に泉野小学校というのがありまして、その学生が柏木町それから川沿町ということで多いわけで、そのいろんな登下校の安全安心を見守るという仕事をしております。町内会ではそういう人たちにジャンパーや消耗品、それから年1回の交流会などをやっております。

それから、豊陵公園のフラワー倶楽部。これは約30名でやっておりますが、今年は優秀賞でしたけれども、去年、一昨年は最優秀賞になりました。それから、ゴミステーションパトロール隊。これは、市からの依頼で2年間パトロールをやっておりましたけれども、今年からそれが縮小されまして、今は7人でやっております。

それから、糸井地区商栄会。これは、商栄会というのは、柏木町を含めて、あの辺の6町内会くらいの商店街で形成されまして、樽前神社の分室といいますか、糸井山神社というのがありますけども、そこのお祭りをやっております。町内会からもこのお祭りに対して人員を派遣しております。

それから、青空幼稚園。これは、毎年の港祭り、市民踊り。これは、30名くらいの先生が参加して、若い先生です。おかげさまで、毎年受賞しております。青空幼稚園の園長さんと町内会長が前の園長ということで、そういう縁もありまして、協力しながらやっております。

それから、小中学校。これは、先ほど言いました。小学校は泉野小学校、中学校は啓明

中学校が我々の近くにありまして、避難場所にもなっております。この自転車教室だとか、その他川沿町と合同で、6年生の卒業餅つき大会を実施しております。

それから、グループホーム柏木。ここに介護施設がありまして、お正月の餅つきだとか文化祭だとか、いろいろそういう、出て歩いてみたいという、行事に参加してみたいという人は、うちの付添いの方もいらっしゃいますが町内会の行事に参加しております。餅つきなんかは、あの、90歳くらいで、かなり、我々よりもうまいんじゃないかという人もおります。

それから、泉野小学校の少年野球チームイーグルス。これは、数年前から、だんだん子供神輿の担ぎ手が幼少化されまして、もう、3年生以上になったら出て来ないというようなことがあります。この泉野小学校の野球チーム、イーグルス。これが町内会で補助金出してありますけども、これが先頭に立って、代わりとして神輿を担いでもらおうと。今は神輿を担ぐといっても、これも4年くらいになりますけども、とても年寄りと子供だけでは担げないんで、リアカー式、組立リアカーですね。あれを引いております。

その他、町内会、他の町内会との提携でございますが、今年、川沿町と一緒に「旗の波」、今まで別々にやっておりました。双葉三条線をお互いに向かい合って、別々な日にやっていたんですけど、一緒に合同でやったということがございます。また、隣の澄川には、澄川町の防災訓練はなかなか大々的にやっております。そこには、その日にはうちの町内会から青パトだとか防災部員が応援に行っております。

それから、次がちょっとね、これは読んでると長くなりますんで、いろいろありますけども、去年、高校生が青少年部に入ったということで、随分、テレビや新聞で盛んに報道されましたけども、やっぱり、若い人が入ってくると、何となく勢いも違うなというふうに感じておりました。何とかそういう若い人を。勤めている人は勤めがありますからね、なかなか大変ですね。そういう若い人に少しターゲットを絞った、役員の成り手といえますか、そういうふうを考えております。

女性部などはバスの親善旅行をしておりますけども、特に去年辺りからバス料金が倍くらいに値上がりしまして、もう高速を走れないとバスも使えないということで、非常に頭を悩ませておりました。今年は、ついに市内の水道施設、下水道処理だとかトヨタだとか、そういうところを見学いたしました。また、毎年、どこに行くか頭を悩ます問題だと思います。

それから、防災部につきましては、青パト（青色回転灯装備車）の許可を取りまして、月4回、青パトが市内を巡回しております。その他、毎月1回、各町内を防犯パトロールをしております。

それから、年2回は全世帯の会員に、会員になっていない人にも広報を配布しています。その中には、会員になっていただけるようにということを書いて配布しております。

それから、あの、葬儀の手伝いですけど、だんだん葬儀はもう、町内会館でやる葬儀は、もうほとんどなく、葬儀自体も今は「町内会に手伝って欲しい。」とか「葬儀委員長にやってもらいたい。」とかという要望は、だんだんと少なくなっております。まあ、自分たちで家族葬とか委員長をたてないで、もう、なかなか葬儀屋さんも全部任せてくれというようなスタイルでやっておりますので、だんだんと町内会で葬儀のお手伝いをするというような回数は減っております。

特にこの町内会の独自の行事ということでございますけれども、他の町内会でどういうことをやっているのか、新聞や何かでしか分からないものですから、まあ、こんなところで。あとはここに書いてありますけれども、その他のことについては、質問のところでも受けたいと思います。

●谷岡会長 柏木町内会様、どうもありがとうございます。ただ今の事例発表に関して、何か皆様方から御質問等はございますか。はい、事務局お願いをいたします。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） すいません、ちょっと事務局からで恐縮なんですけれども、一つだけちょっと。今のお話の中で「交通安全旗の波運動」ですとか、「防犯パトロール」を他の町内会と協力してやったということだったんですけれども、どのように声かけしてですね、実現したのかですとか、協力してやってよかった点とかですね、まあ、もっとこうやっていけばよくなるんじゃないかということをお聞かせ願えればと思います。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） はい、総務部の藤野ですけども。ちょっと、あの、詳しくは調べておりませんので、ちょっとあれかもしれませんが、私どもでやっているのは、先ほど出ました交通安全の旗の波運動というのが一つ。それから、もう一つは防犯パトロールを合同で、というのが二つ目でございます。

一つ目の旗の波につきましては、先ほども副会長からも話がありましたが、バイパスがございまして、パセオの近くなんですが。それで、今までですと先ほど出ておりましたが、もう、各町内会ばらばら。日にちがばらばらということで、「うちは、ここでやると言ったら、やる。」と。それで、やって終わり。実は、交通安全部どうしですね、川沿町とうちの町内会で、これは数年前からいろんなことで年に2回ほど会合持っておりまして、その交流の中でですね、「今度、一緒にやってみないか。」という話が、去年、出たそうです。それで、実際、去年、初めてやりました。日にちを決めて、向かい同士、南は川沿、北側は柏木なものですから、そこでもう、両サイドで旗を振っているということで、去年、初めてやりました。「お互いによくやったね。」という感じで終わっております。今後も続けていきたいということですね。

それから、防犯のパトロールですけども、これは引っ張られていきました。澄川町内会の防犯隊がすごく馬力があって、大規模なんです。リーダーがおりまして、100人規模で年に確か2回か3回、澄川地区でやってるんですね。野球チームから、消防団から、PTAから、関連団体全部を集めてパトロールをやってるんです。その一つとして「隣の柏木町の防災部も来てくれないか。」という要請がありまして、「そうしたら、行きますか。」ということで、お付き合いの中で数年前から行っております。柏木町から、また、澄川さんにお声掛けすることは今のところ考えておりませんが、できれば、合同でうちの町内会の方でもやれば、これ、またいいのかなと思っております。

◎柏木町町内会（辰田副会長） 年に2、3回、月1回やってるパトロールには、澄川の防災部長さんが2、3回出ておまして。交流が、わずかな糸口ですけども、お互いに繋がりを持つようになってきているということは、事実だと思います。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。何か御質問はありませんか。はい、水口さん。

●水口委員 3点ほどちょっとお聞きしたいんですけども、加入率66.3パーセントということなんですけれども、これは、あの、アパートが多いのかなっていう感じがするんですけども、あの、うちも大体、私、有珠の沢町内会なんですけども、世帯数でいくと、大体、これくらいなんですけども、88パーセントくらい、今、いってるんですね。毎月、世帯数出してますんで。ちょっと、そこから見たら低いって言った失礼ですけども、その辺がちょっと、アパートが逆に多いのかなっていうのが、ちょっと知りたかった

ことと。

それと、2点目は役員体制で各部、まあ、部長さんが9人いますんで、9部あると思うんですが、副部長が64名っていうと、すごく何か多い体制。まあ、強力だということが言えるのかもしれませんが、まあ、7人から8人くらいが副部長がいるのが、これ、やはり仕事何かあるから多いのか、その辺、ちょっと聞きたかったのですね。

防災部とですね、自主防災会っていうのは、作ってやってられるんでしょうか。それで、そうなりますと、自主防災会と防災部の関係っていうのかな。それ、ちょっと3点、知ってたんですけど。

◎柏木町町内会（辰田副会長） 加入率については、88パーセントから見れば、66パーセントっていうのは非常に。まあ、苫小牧の平均で、やっぱり60数パーセントでしょ。だから、お宅が異常に高すぎると。

●水口委員 アパートが多いのかなっていう。

◎柏木町町内会（辰田副会長） アパートは、結構、多いです。アパートは、まず、10世帯あったら1世帯入るか入らないか、そんな感じですね。

それから、2番目の役員体制ですね。これは、あの、前もって渡したパンフレットにいろんな行事が書いてありますけれども、それは、全部、一応は「自分たちの部でやるものについては、自分たちでやる。」ということが建前になっておりまして、それにももちろん役員は手伝いますけども、そういう意味で。例えば部長1人で副部長2人（しかいない）と、何かあっても動きがとれないというようなこともありますんで、とにかく副部長には、今のところ、柏木町は人数については制限がありません。だから、なかなかないですけども、「何部に入りたい。」とかいう人がいたら、全て、よほどのことがない限り、オッケーです。

●水口委員 副部長というのは、委員というか、部員的な感じですね。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） 一般的に言う部員です。部長の下はみんな副部長なんです。昔なんか7丁目まであるものですからね、各区から一人とかっていう原則で選んだ時期があって、大体、その辺の数が、各部で置いているということです。

●水口委員 意味、分かりました。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） それから、3番目の自主防災組織につきましては、確か柏木町は平成13年に自主防災組織というのができたはずですよ。

あの、はっきり申し上げまして、自主防災組織。例えば避難誘導班だとか炊出班だとか、いろいろそれを各部に分けてまして、作ってはあるんですけど、はっきり言って、それ、今、有名無実でございます。したがって、これは、今の防災部が中心になって、全てをやらなければいけないというような体制になっておりまして、組織はあるけれどもそれが動いていないというのが正直なところですよ。

●水口委員 ありがとうございます。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。それ以外に何か、はい、どうぞ。

●佐藤委員 すいません、ちょっと、会費のことでお尋ねします。世帯数、1戸建て、アパートの他に、地区で営業をしている企業さんからの会費収入っていうのは、柏木町内会さんではありますか。

◎柏木町町内会（辰田副会長） 柏木町内会にはありません。住んでいる人、商店主でもそこに住んでいる人だけから徴収しております。

したがって、あの、柏木町は寄附ありません、商店街からの寄附ですね。

●佐藤委員 例えばその、防災のこととか、若い人がっていう問題は、各町内会同じだと思うんですけども、各企業さんに協力を得ようとかっていうような話とか、そういうことは出たことがありますか。

◎柏木町町内会 それは、ありますけどもね、意外に柏木町、世帯数が多い割には、ざっと見ても分かるように、お店屋さんとか工場っていうのは、ほんのわずか数えるほどしかない。向こう側に行ったら、あの、山側の方の道路から向こうなんか、ほとんどない。最近、何かセブンイレブンがちょっとできたと思いますけれども、そんな程度で。したがって、いろいろな協力を得たいと思ってますけれども、その人たちも人手不足ということで、なかなか町内会のお手伝いまでには手が回らないと。

さっき言った商栄会という組織があって、お互いに我々の盆踊りのときだとか、手伝ってもらったり、向こうの糸井山神社の出店のときには、こちら手伝うということで、トータルで応援し合うということで、個々のあれまでは、ほとんど。私も町内会のことを全て知っているわけではありませんが、そこまではいかないだろうというのが柏木町の事情です。

●谷岡会長 佐藤委員、それでよろしいですか。

●佐藤委員 はい、ありがとうございます。

●谷岡会長 では、喜多委員、何かありましたら。

●喜多委員 はい、分かりました。では、何点か質問させていただきます。このアンケートの方を拝見させていただきまして、気になったところがあったので、ちょっと御質問させていただきますと思います。

まず、あの、役員の成り手が不足している。これはどこもある問題かとは思いますが、例えば小学校とか幼稚園とか、そういう若いお父さん、お母さん方で積極的に参加される方々っていうのは、何名くらいいるのかなっていうのをちょっと聞きたかったんですけど、大体でいいんですけども。それとも、全く関心がないような感じなのかというところを聞きたかったんですが。

◎柏木町町内会（辰田副会長） さっき、副部長が六十数人と言いましたけれども、5人いるかどうか。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） それは、役員に関わって、やっているかどうかということですか。

●喜多委員 そうですね、積極的に。まあ、役員でなくても、まあ、積極的に顔を出されている。要は、これから期待できる。まあ、今後の役員として期待できる方も含めて。成長株というか、そうですね。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） そういうことでいきますと、青少年部に若い方、現役の方ですね、3名おりました。一番若い方が20代で、去年入った、失礼しました、一番若いのは、この前入った苫工（苫小牧工業高等専門学校）の生徒ですね。その他は、企業に勤めている20代の方がおりますね。

◎柏木町町内会（辰田副会長） 今、言ったように、小学校の若い奥さん方、子供を持っている若い奥さん方が町内会にどのような関心を持っているかということにつきましては、子供の行事にはついてくるけども、お菓子もらうとか、そういうのはあるけども、積極的に自分が座って手伝うというのは、あんまりないですね。おりますけども、だけれども、それ、今、あれじゃないですか、何か、奥さんも働きに行かなきゃならないような時代でね、土日の夜しか空かないとかね。やっぱり、我々みたく、年中、時間に余裕がある人がやるのが、まあ、どこの町内会でも同じだと思うんですけども。

（若い役員を）欲しいことは欲しいですよ。だから、そういうものに対してどういう取込みをするかと、「昼も働いてるから大変だろう。」というようなことでなくて、もっと積極的に行かねばならんのかなという気はしています。そういう御指摘、ありがとうございました。

●谷岡会長 あとは、何かありますか。

●喜多委員 例えばその、子供の中で、町内会ですから縄張りというかある中で、学校区がこう、微妙に重なったり重なってなかったり、同じ学校だけど、とかありますよね、そういう子供がお祭りに来てとかってあるじゃないですか、町内会のお祭りに。例えば「本当は隣の町内会だけど、学校区が一緒で。」って。そういうのは、割りかしオープンに受け入れる方ですか。それとも、

◎柏木町町内会（辰田副会長） これは、もう、オープンです、非常に。子供の行事に関しては、非常にオープンです。ですから、何ですか、今年の盆踊りで一等、くじ引きで自転車が当たるんですけども、去年も一昨年も札幌から来た人。

それから、ちょっと問題あるかもしれませんが、会費をね、会員になっていない人の子供が行事にいたら駄目だとかっていう噂もありますけども、そういうことは、子供については、オープンにしております。子供は今、これからね、日本の成長株ですから。

●谷岡委員 はい、ありがとうございます。いいですか。
では、山田さん何かないですか。

●山田委員 特にないです。

●谷岡委員 はい、いいですか。そうしたら、志方さん。

●志方委員 はい。自分の本分にも関わる部分で、ちょっと、お尋ねしたいんですけども。防犯パトロールに関して日本財団とかが車両の提供の募集とかもやってたと思うんですけど

ど、そちらではパトロールカーとかは、借上げで、

◎柏木町町内会（辰田副会長） 個人の借上げで、そういう許可を警察からもらって。

●志方委員 なるほど。その際にですね、パトロールするときの保険とかってというのは、ボランティア保険とかは入ってますか。

◎柏木町町内会（辰田副会長） これは、入っております。

●志方委員 なるほどですね。あと、町内会館の運営というか、お話があったと思うんですけど。実は、かれこれ10年くらいらしいんですけども、商店街の補助金、助成金の中に地域のコミュニティスペースとしてのカフェを作らないかという補助金、助成金の制度が非常に多くてですね、いろんな商店街がそれを試みたりはしてはいるんですけど、実際は、なかなか、うまくいかないんですよ。なぜなら、そもそも商店街に足を運ぶっていうこと自体が、日本全国的に少なくなってきたというところがありまして。

一方で、どこの町内会館に行っても、皆さん結構お集まりだったりするので、あの、自然発生的にコミュニティカフェみたいになってるのかなと思ったので。例えばそこで、カフェ化してですね、まあ、喫茶店でも何でもいいんですけども、高齢者であったり、皆さんがせっかく集まるんだったら、そこにこう、運営費じゃないですけどもコーヒー代を落としていくようなシステムにして、会館利用料として収入を作ってみるとかっていう制度はどうなのかなと思ったんですけど。

◎柏木町町内会（辰田副会長） それは、福祉部の事業でふれあいサロンっていうのが月1回開いております、それは、去年までは無料だったんですけども、今年から1人100円取るようになりました。それで、お年寄りが大体50人ぐらい集まって、一緒に踊りを踊ったり、お茶を飲んだり、まあ、最近は100円取ったから弁当が当たるようになったようですけども、町内会でかなり負担してやっております。その代わり、ふまネットとか何とかいろいろ、そういうお年寄りが集まる場というのは、そういう意味ではあると思います。

その他、先ほど言いました老人クラブ。これが、結構な活動をしておりまして。老人クラブですから老人が多いわけで、旅行したり、カラオケやったり、パーク（ゴルフ）やったり、まあ、町内会よりも元気だというような活動をしております。それについては、我々は、同じ町内会でも27万円という負担をしていますね。あの、同じ組織と思っております。

●志方委員 なるほど。何かこう、よく、商店街だと管轄官庁が中小企業庁なんですけれども、中小企業庁からは持続発展可能なように、要は、持ち出しではなく、かえってその、利用する人たちの受益者負担というか、させるようなものを推奨してるところがあったので。うちの祖母は、敬老会は割りと楽しみに、結構、行ったりもしてたんですね。で、敬老会は敬老の日に年1くらいの開催だったかと思うんですけど、結構、何だかんだのイベントで集まっていたので。そういう、こう、にぎわいの場を商店街には期待されるんですけど、実際は商店街にそんなに来ないので。であれば、かえって町内会館とかを活用して町内会費のあてじゃないですけども、そういったふうに運用を変えてみるのも面白いのかなんて思ったんですよ。

◎柏木町町内会（辰田副会長） 正直な話をすると、やっぱりお年寄りが集まるというこ

とについてはですね、今、言った「個人で、負担して。」と。「楽しいところがいろいろあるんだから、来てちょうだい。」って言ってもね、なかなか難しい。だから、いろんな行事でも、お茶を付けるとか、ティッシュを付けるとか、そういうことでもしない限りね、はっきり言って、集まりが悪いんです。そこまでね、町民は行ってないです。他の町内は分かりませんがね。

それから、敬老会については、これも今年約600人の対象者がいましてね、160人の参加。これもね、約3分の1ということで、市役所から3,000円の補助が出ていたときは、民間の施設かどこかでやってたんですけど、今は1,000円で好きなことやっていいということで、1,000円ですと何もできません。町内会も負担して、会館で午前中と午後と分けて、いろいろ余興やっていますけど、まあ、それはそれでみんな楽しんでいるようです。

●志方委員 ありがとうございます。

●谷岡会長 どうもありがとうございます。川島委員、お願いします。

●川島委員 はい。柏木町のいろんな活動をですね、これ、ちょっと、拝見をさせていただいて、本当いろんなことをですね、されてるなあっていうのがよく分かりました。

で、一つ私、お聞きしたいのは、やはりその、会員にね、なっていたいきたいなと思う人への呼び込みっていうんでしょうかね。加入率66.3（パーセント）っていうことなんですけど、あの、まあ、最初に、こう、転入されて、入ってきて、あの、「町内会どうですか。」と、「入りませんか。」っていう。まあ、最初は、こう、多分、お声かけされると思うんですけど、その後、「まだ、後で。」っていう方に対して継続的な何かお声掛けとか、何かそういう、こう、「入ったらどうでしょうか。」みたいなお誘いみたいなものは、実態はどうなんでしょうかね。

◎柏木町町内会（辰田副会長） はっきり言って、そういう面では甘いです。もう、こう回して、チラシで。これ、チラシありますけどもね、そういうの回したり。

やっぱり、一番確実なのは近所にいる人、隣の人とか向かいあった人が、ロコミといいますが、あの、町内会の役員が行って「どうですか。」っていうよりも、それこそ「お年寄りの会があるから、会員になってみましょうよ。」というようなロコミが一番、小さいけども今のところ確実かなと思っています。不特定多数で、我々のPRの仕方も悪いのかもしれないですけども、「入ってください。」というのは、なかなか難しいということですね。

それと、さっきも話がありましたけれども、アパートの人が会員が少ないと。随分、町連辺りでも話してると思うんですけども、アパートの大家さんにね、「町内会のここ（アパート）に入るには、町内会に入らなければなりませんよ。」というようなPRと。それから、そういう義務付け。おそらく、これは難しいと思うんですけど、そういうようなことをしてはどうかという話もありましたけど、なかなか大家さんの方も「そういう何千円も会費を払って、家賃の上に上乗せするというのは、なかなか人も集まりにくい。」ということで。まあ、話には出てますけれども、そういう方法でやったことは、加入したのは1件もないですね、大家さん通じてっていうのはね。

●川島委員 で、ちょっと今の話で、例えばその会員になる方に関して、まあ、こう、ちょっと配布（資料）の中で、あの、まあ「区長さん等に御連絡ください。」っていう形で、区長さんのお名前と電話番号が書いてあるんですけど、やはり、こう、新しく転入された方

は、「いったい、誰なんだろう。」ということで、顔が分からないから、なかなか電話をかける勇気がないと。そのときに、例えば町内会館だとかね、まあ、そういう事務の方ですね。何か、（町内会館に）行って、「私、入りたいんですけど。」とか、そういう相談的な部分ってあるんでしょうか。

◎柏木町町内会（辰田副会長） それは、一応、総務が窓口ということなんでね、

◎柏木町町内会（藤野総務部長） そうということで、積極的に会館に来る方は、ほとんどおりません。ここで私ども作った4ページにちょうど、あの、1枚ものの資料の4ページに未加入対策ってということで、一定の対応を書いておりますけども、今、お話出ましたけれども、とりあえず7つの区がありますけど、区長さんによってですね、やっぱり、こう、でこぼこ（対応の違いが）があるんですね。力を入れる区長さんもいますし、どうせアパートだから出でっちゃうし、もう、出入り大変だし、集計大変だということで、最初から呼びかけをしない区長さんもおまして。そういう意味ではバラバラで、ちょっと統制とれないところがありましてね。確かに弱い面で、悩んでいるところです。

チラシにつきましても、チラシ入れたからって入ってくれるもんじゃありませんのでね、先ほど言いましたように、声を掛けてやってもらってます。

ただ、あの、一番身近にいる班長さんが、転入者は分かりやすいんですが、班長さんは一年で交代する輪番制の班長さんなものですから、「あんまり難しいこと、嫌ですよ。」ということで、区長さんに話がいったら、区長さんもお話はしますけど、やっぱり、対応はばらばらの状態であるんですね。これは、大きいチラシは年に2回ほど、それこそ全部の世帯に2、200枚入れて、広報と一緒に配布してますけれども、そのページの中にも書いてありますけども、これはこれで見てくださいってということですね。原則、先ほど言いました、声を掛けて家に行くということが原則だと思います。

●川島委員 どうもありがとうございます。

●谷岡会長 では、栗山委員。

●栗山委員 特にございませぬ。

●谷岡会長 いいですか。では、小山田委員。

●小山田副会長 ここの9人の部長さんね、これだけ独自に実施している内容を引き受けられて、継続的にやっておられるのは、本当に頭が下がるっていうふうに、私もそのとおりだというふうに思います。せっかく、市の担当の方いるんで、見るとですね、「市や町連への行事の参加。」っていうところとかですね。あと、アンケートのところでも、最後の問17のところですね。4番あるいは5番という「市と連合町内会との実態レポートを市に定期的にまとめてほしい。」とかですね、5番の「市職員が役員会に来て、いわゆる出前講座をしてもらいたい。」という、こういう要望あるんですけど、市との連携っていうのはどういうふうにお考えなんですかね。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） 先ほどもアンケートで「市でも町連でもいいが、全町内会の実態レポートを定期的にまとめてくれればありがたい。」ということを書いたことありますけども。

窓口っていうと、市というよりも町内会連合会の方が我々の窓口になるのかもしれませんが、やはり、どうしても横並びと言いますか、「よその町内会、どういうことやってるんだろう。」っていうことがやっぱり興味がありましてね。それで、行くと、やっぱりそういう資料がない。で、町内会連合会にお話をしたら、「総会の議案は全部セットしてあるけれども、あと、見るんでしたら、どうぞ来てください。」というような。まさか、町連さんに「香典の出し方について、どうなってる。」ということをして、ね、「集計してくれ。」とか、「町内会館の運営をどうしているか。」というのは、そういうのはやっぱり自分たちが町連さんの事務所に行って、各町内会の総会の議案を見て、あるいは、規約を見て調べるとか。

最近では2か月前にもやりましたし、今回も今やってるんですが、私どもが単独で10か所ぐらいの町内会さんにもアンケートを直接、返信用のハガキも入れて、今、やっていまして。まあ、それは、うちには当面、する問題があるものですから、そういうふうに行っているということ。まあ、ちょっと仕方ないからやったようなものですけどね。

結局、何かこう、担当者の事務が増えて申し訳ないことになるかもしれませんが、一町内会としては、市内全体の町内会の実情をこう、ぼん、ぼん、ぼんとまとめてあるようなものをいったん資料で作っておいていただいて。それを元にして、また、話をね。

それを、0か1かをよその町内会に聞くというのね、というのが。

●小山田副会長 そうですよ、成功事例とかね、展開とかね、Q&Aとか、

◎柏木町町内会（辰田副会長） 今、あの、町内会館の使用料の見直しを今やっておりますけども、結局、「この使用料は、高いんだろうか、安いんだろうか。」「他の町内会は、どうなんだろうか。」ということ調べるのにも、個人的に知ってる場所の町内の人のところに行って、教えてくれる町内もあれば、教えてくれない町内もある。

まあ、せいぜい集めても3か所か4か所ぐらいが精一杯ということで。あの、正解というのはないんでしょうけれども、まあ、今、言ったように「どの程度だろうな。」っていうのは知りたいですよ。

●小山田副会長 そちら辺がね、取りまとめていただいて、よその成功事例の水平展開だとか、それからQ&Aとかね、少しまとめられると、運営ももうちょっとやりやすくなるのかなというふうには思いますね。

●志方委員 これ、町連で町内会ポータルみたいなウェブサイトを作って、情報公開することかできてきたらいいんでしょうね。

よく、小泉政権のときに結構たたきつぶされましたけど、特殊法人の情報公開に関しては、こと細かに設定されてるんで、各団体の情報公開が進めば情報のアクセスのしやすさも出てくるのかなと思うんで。

●小山田副会長 そうですね。双方向のね、ウェブサイト、ポータルサイトみたいなようなものをちゃんと作ってね。あとは勝手にメンテナンスしててくれますからね、参加者からね。

●志方委員 そうですよ、ちょっと予算だてして。

●谷岡会長 いいですか。あと、事務局の方で何か御質問はありませんか。

○事務局（中村市民自治推進課課長補佐） あ、今のアンケートの3番目のところの「市内ブロック別の総務会計部長会議」とか、まあ、「ざっくばらんに他の町内会と。」というようにお話もあったんですけども、やはりあの、今のポータルサイトのお話にもあったんですけども、ニーズとしては、かなり高いものと感じているところでしょうか。

実際に、その、交通部の方では他町内会さんと連携をしてきたという経過もあったと思うんですけども、やはり、そういう部門別の会議とか、そういうようなものが行われると、かなり、町内会活動にとっては有益であるというようにお考えということでしょうか。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） ええ。たまたま、私が総務担当なものですから、会計部長とよく話をしていますね、「いか、分かんないな。」という話をしているものですからね。

今も、町連さんでも2年に一辺くらいブロック別のテーマ決めてやっていますよね。3つくらいのブロックでやっていますけれども、僕も何回か出たことがありますけど、これは、大きいテーマで結構やります。これは、僕らは、総務、会計の部長さんが集まって、「あなたのとこの会計の事情、どうなのよ。」とか、「繰入金だとか預金とか積立金だとかどういうふうになっているのさ。」とか、そういう実務的な部分を聞きたいんですよ。

もう、大きいブロック会議に行くと、もう、レベルが別ですからね。そういうふうな担当者のひざを詰めてお話するようなものを僕としては求めて、会計部長ともよく言っているんですけどね。ということを書いたつもりなんですよ。

●谷岡会長 あと、事務局の方でいいですか。

○説明員（石井市民生活課長） グループホーム柏木との連携の中で、運営委員会、役員10名を派遣していると。この関わりってというのは、どういう位置付けになっているんでしょうかね。

◎柏木町町内会（藤野総務部長） あれは、介護保険法か何かで義務付けられているんですよ、何とか運営委員会というのは。

○説明員（石井市民生活課長） その話ですよ。

◎柏木町町内会 そうです。ですから、自主的に行っているとかいうことではなくて、そういう法的な運営委員会、2か月に一編、しなければならないんですよ。そこに行っているのが。ただ、メンバーはうちらが随分多いみたいです。僕も行って急になったんですけど、2か月に一編、行っています。

●谷岡会長 はい、あとはよろしいですか。

いろいろ、貴重な御意見ありがとうございました。では、これで柏木町内会の事例発表を終わらせていただきます。

【日新町町内会活動の現状、具体的な取組等について（事例発表）】

●谷岡会長 それでは、続きまして、日新町内会の会長さん、よろしく願いをいたします。

◎日新町町内会（田村会長） 日新町内会の会長をやっております、田村です。特に資料は、今日は出してないんですが、概要だけ町内会のちょっと報告させていただいて、その後、サポートの方を報告したいと思います。

日新町内会は、苫小牧市の西部糸井地区に昭和45年から49年までの5か年計画で公営住宅団地の造成が開始をされました。市営住宅団地の建設に伴って、企業の社宅、小学校、中学校、保育所、病院、団地の共同住宅の給湯、暖房の供給をする会社の設立など、住環境が整備をされてきました。

昭和46年6月、糸井北町第2町内会の第3郡として町内会の加入をしています。昭和49年の10月、市営住宅団地内に糸井北町第3集会所というのが市費で建設をされました。これが現在の日新町内会の会館として、地域の拠点となっています。昭和53年10月、町名が日新町となりまして、日新町内会に名称を変更いたしました。

昭和63年度の世帯数は1,800戸でした。平成に入りましてから経済状況の変化もあり、企業の社宅の取壊しや、社宅の賃貸住宅への用途の変更で、住民の減少や町内会の加入世帯が減少してまいりました。また、平成26年から平成40年までの計画で、老朽化が進んでいる市営住宅を解体し、新築立替をする事業が始まっています。

平成26年に120世帯が日新町の市営住宅から若草町の新築市営住宅に転居をし、120戸が引越しをされ、町内会の世帯数が減少してきております。平成27年の4月の世帯数が1,541ということで、この住宅の構成を見ますと、賃貸住宅、マンション等の共同住宅が24パーセント、公営住宅、市営住宅、道営住宅を合わせまして、55パーセントと。一般住宅が21パーセントというふうになって、大半が市営住宅と道営住宅という構成になっております。

で、町内会で独自に実施している事業ですけれども、今年の7月から市で町内会活動保険というのが実施をされましたが、それが実施されるまで、当町内会としては独自で町内会活動保険を掛けておりました。

それから、団地内に銭湯がありまして、これが老朽化によって廃業となったんですが、市営住宅でお風呂の付いていない住宅がありました。その中の高齢の方が近くの銭湯に行くのが大変だということで、有志を募って、銭湯への支援活動を実施したという事例がございます。あと、住民交流活動としては、新年会、夏祭り、こども神輿、果物狩り、バス旅行、盆踊りと。それから防犯活動につきましては、子供の登校時の見守り、夜間パトロール、防犯灯の管理と。それから、防災活動につきましては、自主防災組織の設置、防火非難訓練、防災訓練と。で、青少年育成については、ラジオ体操、餅つき等を行っています。高齢者福祉については、敬老会、独居老人との食事会、老人クラブへの助成というものを行っております。広報活動につきましては、市広報の配布、それから、町内会独自の町内会だよりというのを年4回発行しております。体育活動については、パークゴルフ、それから卓球、ミニバレーを行っています。慶弔事業につきましては、葬儀の手伝いということで葬儀は年間、大体、20件くらい行われますが、そのうち葬儀委員長頼まれるのは5件くらいと町内会館での葬儀というのは0です。

それから、加入率向上のために必要なことということで、町内会広報や、それから、各独自でチラシを作りまして、新しく建物が建てられたところとか、それから、賃貸住宅に変わったところなどに入れておりますが、反応はあまりよくありません。町内会としては未加入者の方にいかにかこう、町内会活動に関心を持ってもらえるか、いろいろと役員会でも協議をしますけども、これといった打開策というのは、なかなか見つけられないということですね、大変、苦慮しているところです。

それから、市からの支援、協働を進めるために必要なものということで、市からの情報提供というものをお願いをしたいということで、特に町内活動に対する各種団体の助成制

度の紹介、これをやっていただけると大変ありがたいなと。大変、あの、町内会加入率の減少している中で財政基盤っていうのが弱くなってきてますんで、できるだけそういう助成制度を使えればなというふうに思っております。

それから、防災活動ですけれども、当町内会では65歳以上の高齢者の人口が25パーセント以上ということで、この他に単身の高齢者の方も多く、自然災害が発生した場合のですね、緊急避難というものについて、なかなか町内会独自では非常に難しいものがあるということで、こういうものについてもですね、市の支援策というものを一つ示していただければと思っています。

それから、市職員の意識の醸成と地域の市民活動への参加の促進を図ってほしいということで、これは、お願いをするのは市の職員の方も町内会活動を理解していただきたいと。その町内会活動のこの、いろんなことをやることによって、多分、仕事の上でも活かされてくるのではないかなと、そういうふうに思っています。これが大体、町内会活動の報告とさせていただきます。

◎日新町町内会（松尾社会部長） 社会部長の松尾でございます。着座で申し訳ございませんが、日新町町内会における活動について、今、会長の方から概要の説明がございましたが、我々としても若手がしっかりと現状、ある課題を克服するために、どう将来を見据えて考えていかなくてはならないかということを実際に考える時期にあるというふうに認識をしている中で、社会部として地域のお祭りに多く若い世帯の方が参加をされている。そこに着眼をいたしまして、フィールドサポーターという活動を展開させていただくことになりました。皆さんのお手元の資料を御参照いただきたいと思います。

1ページ目なんですが、表紙にあるこの写真。担当課の方でカラーで印刷をしていただいて、配慮をしていただいてありがとうございます。これは、フィールドサポーターが活発化していくための起爆剤となったTシャツでございます。あとで、この辺りを説明したいと思います。

1ページ目になります。日頃から多く報道でも取りざたされておりますが、やはり、地域で隣どうしの御近所付き合いをしていくってところは、小さな声掛けから始まっているというふうに我々も思っています。そこでまず、社会部を担当させていただいて、何ができるかというところを考えたときに、身近な周りの方に小さな声かけをしていくことで、大きく広がっていくのではないかというふうに推測をしました。そこで、これからの町内会の活性化に向けてどういうふうに進めていったらいいか、まあ、あの、賛同してくれた仲間と一緒に考えていこうということで、フィールドサポーターが平成25年度からスタートをいたしました。

それで、社会部としては、まあ、地域行事をやっていくに当たって人材を発掘できるのではないかと。そして、担い手が不足している、特に役員の高齢化が叫ばれておりますが、ここで少しでも歯止めをかける準備を今から進めなくてはならないというふうに考えていく中で、町内会行事をサポートしていこうという目的がございます。要するに、名前はフィールドサポーターというふうにかっこいい名前なんですが、実際に言うと、お祭りとお盆踊りの後方支援という位置付けでございます。役員でもありません。サポーターを募ったときにですね、仲間意識を作るために、日常的にこう「今日はここの家で集まろう。」「明日は、じゃあ、こちらの家で集まろう。」というような、小さな寄合いを作ってきました。そこで、今あるその日新町内会の現状と、そして、我々ができる唯一の手段は何だろうかということ議論してきたわけです。これも詳しく、後ほどお話をしたいと思います。そういった仲間が今、小さいキャパの中で、一生懸命、地域を盛り上げていただいているところなんです。

内容としては、私ども社会部からのお手伝いの要請に応じていただくことと、あと、各種専門部が総務から防災もございますが、そちらの方の事業のサポートをしていただくという位置付けで、特に向こう2年間は、社会部の担当行事であります新年交礼会と子供神輿の練りまわし。で、一番、町内会で最大の行事となっている日新祭りの応援です。あとは、盆踊り大会等々、敬老会にも自主的に参加してくださるサポーターが増えてきているのが現状です。実施は、通年ということで活動をさせていただいています。町内会の対象区域を限定的に進めている事業でございまして、現在、サポーターの登録数は12名で、ほぼ、20代から40代の働き盛りの若い世帯の方をお願いをさせていただいております。このサポーター制度に登録されている方は、全て自発的に町内会活動を支援するという事で了解を得ているサポーターでございまして。

2ページ目になります。取組のステップとしては、今もお話をしたんですが、まずは町内会の良さをしっかりと理解していただくために、まず、楽しんでもらおうというところからきっかけ作りを始めていきました。社会部としては、このフィールドでの活動、特にお祭りになるんですが、町内会の役員さんが高齢化ということもありまして、なかなか届かない面もあるということに着眼をして、力の弱いところに若手を投入して、高齢者の役員をサポートしようよと。そういう考え方で、組織化を模索してきました。それで、まあ、どのような反応があるかということで、対象世帯、町内会の対象世帯、町内会の区域全域にですね、チラシを配布をさせていただいて、また、私の方からも仲間を通じて「こういう活動をしたいんですが、まあ、できるところから協力をしていただけないか。」という要請をしていきました。まあ、それで、平成25年の総会でフィールドサポーターの事業が正式に承認をされまして、予算化もされております。これは、年間2万円で、現在、運用をしております。そこから各事業のサポートが開始をしているという流れになっています。

まあ、あの、サポーターの立上げの部分なんですが、まず、あの、一番最初にもお話ししたんですが、やはり、いろいろなお手伝い、そして、まあ、楽しみながら親しんでいただくというところから、町内会の役割を知っていただくところから始まっていくのかなというふうに考えています。まずは、その機会を我々からもしっかり町内会員に問いかけていかなないと、伸びていかないのかなというところが一番の目的になるかというふうに思っております。

2番目なんですが、我々、社会部から要請を行って、そして、事業のサポートをしていただくんですが、まずは、経費としてこの2万円というふうに今、金額をお示したんですが、全てTシャツの作成費にお金がかかっておりますんで、ここは、今後、そのサポーターの中でも安いTシャツがあつて、自分たちで作ってこうよという流れにもなっておりますので、ゆくゆくはこの2万円も、どんどん、まあ、予算化しなくてもいけるんじゃないかというところを模索しています。

サポーターとしての事業費は、ございません。まあ、ミーティングを持つための会議の場所を借りるためのお金、それは、町内会館を利用させていただいているので、社会部事業として社会部の会合という形で今は使用させていただいています。また、あの、各メンバーで持寄りでの寄合いを開いているんですが、これも手弁当でやっていけるというふうに確信をして進めましたが、おおよそサポーターの方が承認をしてくださいますして、事業がしっかりと進んでいるというところに、まあ、サポーターの皆さんに本当に感謝をしなくちゃいけないなというふうに思っております。

で、メンバーの構成は、先ほどお話ししましたが12人で、ほとんど休日をうまく利用させていただいて、休み時間、会社のそれこそ職場の休み時間を利用して手続に行ってくれたりだとか、そういう仲間も最近増えてきてくれています。これは、本当に役員さんをサポ

ートするために自主的に声をかけてくれるというところは、素晴らしい取組ではないかというふうに私も頭が下がる思いでございます。そこで、この仕組みなんですけど、今もお話したように図面で表記をさせていただいてますので、もし皆さんから御意見がございましたらお答えをさせていただきたいというふうに思っています。

最後、3ページ目になります。どうしても、あの、町内会の笑顔を広げていって、その中で、一番、その笑顔が集まる機会というのは、夏のある一定の期間だというふうに私どもは考えていたところでもございまして、まあ、とにかく役員の負担軽減を先に進めていかなくは、担い手不足を解消することはできないのかなというふうな考え方で、サポーターの皆さんには町内会にお世話になっているという意識を作っていただく機会を我々も提供していくと。で、まあ、負担を軽くすることも当然でありますけど、楽しく身近に住んでいますから、やっていきたいと。そして、義務感と負担感というものは、一番、町内会に入っていく上で壁となっているというふうに考えておりますが、そこも、あの、クリアをできて、サポーター個々人が良い関係作りになっているというふうな現状であります。

そこで、まあ、大きくこの2年間の中で転換してきたことが、町内の区域にある高齢者施設との連携でございます。先ほども柏木町内会の事例の報告の中です、地域にその高齢者施設があって、運営推進委員会というものがあると。これは、どこの町内会にいても、町内会の人が高齢者施設に、地域と関わっているという内情もあります。我々もそこを利用させていただいているんですが、なおかつ、その、職場にいる職員さんにもお声かけをして、一緒にこう楽しみながらやらないかというオファーをかけさせていただきました。

最初は、やはり、介護業界は勤務状態も不規則なもので、なかなか軸になってくれる人が肝心なときにいなかったりだとか、そういう部分もあったんですが、恵まれて、勤務は当然、勤務でやるんですが、終わった後にすぐ連絡をくれます。「今、どうなっている。」という、現状把握をしてくれている人がいらっしゃるんです。そこからまた、その高齢者施設の中で、若手で一つの集団ができて、「フィールドサポーターがあるから、まあ、夏だけでも一緒に楽しみながらやらないか。」というお話をその施設の中で広げていただいたという経過がありました。それで、まあ、高齢者施設との関わりがどんどん深くなりまして、今はサポーターの、一応、フィールドサポーター長というふうに代表を設定しているんですが、そこに就任をさせていただいて、まあ、あの、我々からの意見に対してもしっかりとこう、飲んでいただいて、町内を盛り上げていこうという、一つの目標に向かって頑張っているところでもございます。

我々として工夫していることは、やはり、まあ、フェイスブックとかそういうメール、SNSを積極的に活用しています。今はラインというものもございまして、「誰が読んでいないか。」とかっていう、その、「メールを開いたか、開いてないか。」というのがすぐ分かるような仕組みになっているのがラインでありまして、全ての人にその情報が行き渡っているかというところを、試験的に今、ラインで検証をしているところです。まあ、フェイスブックにも非公開でありましたが、社会部のサポーター制度のグループを作っています。来年度以降は、それを公開にして、もっとシェアを広げていこうというふうに試験的に導入しておりましたが、この活用もなかなか優れたものでありまして、全てのところに情報が行き渡りまして、何とかこの2年間を乗り越えることができたところです。

あと、Tシャツなんですけど、表紙にもありましたが、意識付けをすることって非常に大事だなというふうにアドバイスをいただきまして、町内会の役員さんはお祭りのときにネームタグを付けていただくようにお話をしております。これもフィールドサポーターが発足を2年ですが、その当時、同じ時期に「役員さんですよ。」という位置付けをしっかりと認識してもらおうという行動をしているんですが、Tシャツはなおさら、「我々は、若手で

一生懸命このまちを盛り上げていくんだ。」という意識の醸成をするためにTシャツを活用し、このTシャツがなかなか好評でありまして、洗濯で使い回しをして、新しい役員さんが来たら、その方にサポーターにお渡しするという、今、そんなような行動もしています。

あと、飲コミュニケーションというものがございます。これは、どこの組織に行っても、どこの町内会に行ってもあると思うんですが、我々は持ち寄りの機会の中で、ただ単にお酒を酌み交わすだけではなくて、非常にその、考えていることってなかなか言えないことってあるんだと思うんです。特に町内会のことに関してはそうだと思うんです。地域の悪い話だとかで、つい、盛り上がってしまうんですが、まあ、あの、フィールドサポーターという一つの目的がありますので、これらからまちづくりに対してどういうふうに駒を進めていったらいいかということの真剣な議論が、ここで醸成をされたわけなんです。その意見はいろいろと出されたわけなんです、このTシャツもそうですし、この写真の3枚出させていただいているんですが、中心にあるこれ、ジンギスカン鍋なんですよ、実は、下にあるのは、で、「全員でつつ突いて、食べようよ。」と。これまで、我々の町内会は、お祭りのときでもお弁当をですね、それぞれに配布をしてお昼を済ませていたんですが、分散をしてしまうんですよ。で、せっかく人が集まっているに分散させてしまって、その場限りでっていうのは、せっかく集まっているのにもったいないなと。そこでまあ、一つの鍋を全員で囲んで、それでまあ、仲間意識を醸成して、いろんなことを話し合えるきっかけ作りを作ろうと。そういう行動もしていたんですが、これも高齢者のお手伝いさんになかなか好評でありまして、「じゃあ、来年は何を焼こうか。」とか、そんな簡単な会話から一つのまちづくりができていくんだなというふうな検証も進めています。

それで、課題ですね。最後になりますが、町内会世帯は本当に高齢化が進んでいます。どこの町内会に行ってもそうなんですが、我々も、今、会長の方からも概要の説明がありましたが、ほぼ5割が道営住宅と市営住宅という環境の中で運営をしている町内会です。当然、「加入率も低い。」と会長も日々、頭を悩ませているんですが、そういった加入率促進のためにですね、若手をまず育てていって、そこからまず、いろんな、その、公営住宅の方々にもお話しをし、声掛けをしていくということが非常に重要でありまして、これをサポーターの中にも、そういう公営住宅にお住まいの方がサポーターとして頑張ってくれていますし、来年度以降も更に、公営住宅の中から若い世帯の御夫妻が「来年、ちょっとやってみたいな。」という嬉しいお声掛けもいただいております。これはちょっと時間のかかることなんです、一つずつ着実にやっていくことで、大きな輪が必ず広がっていくものと考えていますので、継続的に進めていきたいと思っています。

で、あの、町内会役員への昇格の模索です。これは、高齢者対策のために今からできることを我々としても真剣に考えていき、そして、最終的には我々社会部に意見を集約していただいて、町内会に問題提起をしていくと。そういう流れを作っているところです。

あとは、これからも、そして、この先もずっとそうなんですが、まずは従来踏襲ではなく、新しい発想に柔軟に対応できるメニュー作りをやっていかないと、伸びていかないと。というふうに考えているので、このフィールドサポーターの活動、しっかりと根付かせていきたいというふうに思っております。

まあ、2年間の活動期間でしたが、来年から更にサポーターへの要請というか、案内のチラシをですね、全戸配布させていただいて、更に我々としても町内にもっと入り込んで、役員さんをサポートできる体制を確固たるものにしていきたいというふうに考えている日新町町内会社会部のフィールドサポーター活動でございます。

簡単な概要説明でございましたが、ひとつ御協議をいただいて、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。ありがとうございます。

●谷岡会長 日新町町内会様、ありがとうございました。ただ今の事例発表に関しまして、何か御質問はございませんか。はい、事務局、どうぞ。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） アンケート調査の方からですね ちょっと2点だけお聴きしたいことがあります。

アンケート調査の間5の中にですね、未加入世帯にチラシを配布していると。先ほどお話の中にもあったかと思うんですけども、効果の方はあまりなかったというお話だったんですけども、配ったチラシの内容ですね。どのような内容のチラシを配ったのかというの1点とですね、もう1点が、アンケートの間15の方にですね、市と協働で行った方が良いと思う活動ということで、防犯ですとか防災活動ですとか挙げていただいているんですけども、具体的に市との協働をどのような形でやっていければ望ましいのかという、何か具体的なものがあれば、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

◎日新町町内会（田村会長） 加入率向上の方のチラシというのはですね、私が一時、作ったんですけども、どうも硬過ぎてですね。それで、もう少し柔らかい文章にならないかということで、ちょっと専門の人がいたんで、その人に相談をしまして。それで、「町内会に入ってみませんか。」「町内会では、こんな活動をしています。」ということで、「お祭りです。」とか、それから「盆踊り」だとか、「果物狩り」だとか、「こういうことをやっています。」と。「会費は250円です。」「みんなで一緒に楽しいまちづくりをしましょう。」とかって、この程度。あとは、「もし、加入をしていただけるのなら、会長宅まで。」ということで、私の住所、電話番号が書いてあります。

ただ、このごろ建つのがオートロックの、ただ入れてくるだけで話はほとんどできないということ。それから、賃貸住宅。今まで社宅であったものが賃貸住宅になったおかげで、入る人がその、同じ職場だとかそういうことに限られなくて、隣近所の付き合いというのがなくなってきているようで。社宅ですと大体、一つでまとまるんでしょうけれども、入る人がそれぞれつながりがないような状態になってきているということで、なかなかその、浸透しないというのが現状であります。

それと、協働ということで、先ほども言いましたけれども、情報の提供をとということで、そういうのも提供されれば、市と一緒に何かできるものがあればやっていきたいなど。ただ、どうも財政的な基盤というのが弱いものですから、そういうものを実現するためには、何かそういう、一部でもこの助成になるようなものがあれば、取り組んでいけるのではないかなと。今、多分、どこの町内会も財政的には、大変、きつくなってきているのではないかなと。ただ、市も相当、いろいろな助成をしてくれたり、支援をしてくれたりしておりまして、街路灯のLED化ですとか、それとか町内会活動保険というようなのもですね、取り上げていただいて、支援をいただいているという面では、相当、町内会としても、大変、財政的には。あと、結果を見なければ分かりませんが、大分、力が付いてきているのではないかなと、そんな気はします。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。それ以外、事務局の方ではありませんか。それでは、各委員の方で、志方委員から。

●志方委員 まずは、先生にフィールドサポーターの件についてちょっとお伺いをしたいんですけども。お話を聞いていると、こう、何ていうんでしょうかね、高齢化してきた、企業年数が創業から時間が経った企業の中での企業内ベンチャーに近いイメージかなと思ったんですよね。

ある程度、組織って時間が経つと閉塞感が出てくるかと思うんですけども、そういう中で気軽に始められて、活動の自由度が高い中で、敷居を低く始められて、いろんな取組がしやすいという意味では、そんな印象を受けたんですけども、やっている方たちの内側の感覚としては、どういった感じなんですかね、イメージとしては。町内会活動との差異というか、

◎日新町町内会（松尾社会部長） まあ、飽くまでもサポーターという位置付けですが、町内会活動に参画をしているという意識でやってくれています。それで、企業内ベンチャーと言いましたけれども、そのような考え方を持っているサポーターは、今のところは存在していないのではないかとこのように思っています。

●志方委員 町内会の通常の役員に就任するのですとか、そういったことよりも、敷居が低く始められるというイメージですかね。

◎日新町町内会（松尾社会部長） そうですね。

●谷岡会長 どうもありがとうございました。あと、水口さん。

●水口委員 今と似ているんですけども、初めは楽しくやろうという発想から始まって、大変、いいことだと思うのですが、サポーターですから役員ではないということなんですけれども、やはり、この人たち、もし、やっていると、何年か経つと、やはりこう、町内会に取り入れていく路線になるんじゃないのかなという思いはするんですけども。その辺は、やっぱり、ゆくゆくはそういう、今、20代から40代ということなんですけれども、すごく若くていいんですけども、やはり、もう20年も経ったら中堅というような、役員の素質というか、出てくるんじゃないかと。そういうもくろみは、全然、期待はしていないんですか。

◎日新町町内会（松尾社会部長） 実はですね、資料にも書いたんですが、役員の昇格というのは非常に重要度があるなと思っています。日々の活動の中で、町内会の役員を、例えば「私が引退したら、跡を引き継いでくれる。」というふうな投げかけは必ずします。そうしたら、「私なんか、できないよ。」と言うんですが、サポートは当然、役員さんのように自発的に。「じゃあ、敬老会、いつだったっけ。」っていうふうなアクションを起こしてくれるんですよ。もう、これはしめたものだと。でも、そこまでに至る時間ですか、かなりかかると思います。説得にはかなり時間がかかりますんで、まずは、身近なところからやっつけていこうと。ある程度、2年、3年。大体、私ども、5年で計算をしているんですが、5年後にもまだサポーターとして我々と一緒に活動してくれるのであれば、その時点で会長をお願いをして、役員登用というような流れにもっていきたいなというふうに思います。

●谷岡会長 はい、ありがとうございます。山田さん、何かありませんか。

●山田委員 とても何か、フィールドサポーターについて、町内会が何をやっているのかわからないというのが、一般の、未加入の人たちの意見だと思うんですけども、そこをうまく利用してというか、そこを知らせることによって興味を持っていただいて、協力していただくという順序立てた取り組みが良く分かりやすいですし、きっと参加されている

かたも12人ということなのですが、やりがいを持ってやっていらっしゃるのかなというのが、すごく伝わりました。

このフィールドサポーター。役員ではないフィールドサポーターの方と役員さんたちの方ですね、役員さんたちの意見というか感想とありますが、そういう活動をされている方たちを見て、何か御意見みたいなものはあるのですか。

◎日新町町内会（松尾社会部長） 最初はですね、1年目に、活動を通してどのような動きをしてくれるかなというのを見るためにですね、Tシャツは着ていただきました。で、とにかく、その、今、我々が指示する、「これをやってくれ、あれをやってくれ。」というところから始まっているんですけども、そこでまず、あの、他の役員さんからですね、当然、お祭りですから「ビールがちょっと飲み過ぎではないか。」だとか、そういう意見もありました。

でも、そこを次の年にですね、改善をしたんですよ。じゃあ、逆に、夜店に入っていたかどうか。売り子さんですよ。もう、制限をかけてしまうんですよ。でも、それでもフィールドサポーターという意識があるんで、そこは、「若手は、しっかりやったな。」というふうな評価はいただきました。

まず、その、マイナスのところを払拭していくというところも必要なので、ちょっと非常に痛い思いもしたんですけども、

●山田委員 それは、やっぱり、すんなりとはいかなかったということですか。

◎日新町町内会（松尾社会部長） いや、意外とですね、時間がかかるかと思ったんですが、日々のミーティングによって改善点を洗い出してですね、「じゃあ、来年はこう行こう。」という、そういう話し合いを進めました。

●谷岡会長 はい、ありがとうございました。佐藤さん、どうですか。

●佐藤委員 質問というよりですね、意見的なものにはなるんですけども、フィールドサポーターの件なんですけど、イベントがあるときというのは、すごく、やっぱりこう、やりがいもあるし、とても意見というのも出やすいと思うので、とても取っ掛かりになる分には、とてもいいことだと思います。あと、普段、イベントのないときも、そういうつながりをもっと深められて、もっと広がれば、すごく楽しいのになというのを聞いていて思いました。

あと、フェイスブックやメールを活用というところで、このフィールドサポーターだけじゃなくて、例えば町内会に加入していなくても、住民の方がそういう情報を得られる。広報紙とか、そういうのももちろん必要なんですけど、やっぱり、あの、もし若い方を取り込みたいという皆さん、役員さんの御希望があるのであれば、若い方の情報ツールに、このフィールドサポーターさんの方で積極的に取り入れられているので、そういう情報交換というんですかね、そういうようなことも積極的にこれからやっていったら、とても面白くなるんじゃないかなとは、思っておりました。

●谷岡委員 どうもありがとうございます。喜多さん、何かありますか。

●喜多委員 大体、みんな出ている意見が同じなので、あえてフィールドサポーターということで、これは、本当に御苦労されて、本当にエネルギーが使われているものと思って

感心しております。本当に御苦労だと思っております。

それで、平成25年5月から今、2年経って、発足当時から12名、並行してきたものなのか、それとも少しずつ増えていったものなのかというのをちょっとお聴きしたかったです。

◎日新町町内会（松尾社会部長） 当初ですね、10人からスタートしておりました。それで、今、2名増えて12名ということで、現在ですね、そのような人数構成になっています。

今のところは、この活動によって「辞めたい。」とか「来年は、ちょっと。」という御意見はいただいておりますので、来年も引き続きサポーターとして協力していただけるのかなというふうに個人的には考えていますが。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。栗山先生、何か。

●栗山委員 非常に素晴らしい取組で、多分、先がけ事例になるんじゃないかなというふうに思います。

一つお伺いしたいのがですね、例えばこのボランティア的な活動ですけれども、町内会の方で、このサポーター。まあ、ネーミングもすごくいいと思うんですけれども、どのくらいまでですね、町内会活動に参加したこのサポーターたちの責任を負うのかというのをちょっとお聴きしたいんですよ。

◎日新町町内会（田村会長） これは、そういう怪我をしたとか、そういうことですよ。ただ、今の保険では、町内会行事として参加してくれた人は保険の対象になるということでいいですよ。ただ、それは、町内会としてお願いをしているということでの、何て言うんでしょう、怪我をされた人、ああいうのを対応するのは、町内会ですと。

●栗山委員 あと、リスクというんでしょうかね、もし、こう、中で服を着て、あんまりないのだと思うんですけれども、悪いことをするといったときのリスクについては、どのようにお考えなんですか。

◎日新町町内会（田村会長） 今のところ、そういうのはありませんのでね。そして、一番きつい仕事をやってもらっているんですよ。

それで、もう、大体70代なんですよ、役員というのが。それで、いろんな、盆踊りの屋根を作ったりという、コンパネ一つ持つのでもやっという状態なものですからね。そういうサポーターの人たちが、そういう力仕事をやってくれているというのは、非常に助かっている。

また、お祭りの、室蘭まで資材を借りに行くことがあるんです。それは、サポーターの方が行ってきて、そういう面でも非常に率先してやってくれているものですから、非常にありがたいなと。

●栗山委員 今、これ、社会部だけだと思うんですけれども、他の部もこういうサポーター制度というんですか、これを広げていく考えはあるんですか。

◎日新町町内会（田村会長） これは、これから徐々に、そういうものというのは、役員できちっとそういう対応を考えて、論議していったらいいかなという。

●谷岡会長 どうもありがとうございます。あと、川島先生

●川島委員 いや、本当に、このフィールドサポーターですか。今後、他の町内会のですね、活動をするに当たって、一つのいい事例になっているんじゃないかなというふうに思ってます。また、こう、意識をですね、高めるためもTシャツをね、同じTシャツを着て活動するのは、本当にいいかなと。ただ、やっぱりこう、使い回しじゃなくてね、何か新しいのをね、一人一つであった方がよりいいんじゃないのかなという気もしているんですけど。でも、アイデアとしては、本当に面白いなど。で、私はこう、例えば各町内会のね、それぞれのこう、色か何かでね、例えばその、日新さんは黄色、どこどこさんは赤とか、どこは緑とかね、何かそういうようなバラエティがあってもね、何かそれは面白いのかなというような、ちょっとそんな感じがしました。こう、皆さんの意識を高めるための手段としてのね、こういう手法というのはすばらしいなど。

それで、今、12名のサポーターの方ですが、この方たちというのは、全部、男性の方なんですか。女性も含まれているんですか。大体、割合はどの程度なんですか。

◎日新町町内会（松尾社会部長） 女性も含まれています。割合としては、半々くらいですね。

●川島委員 さっきも力仕事というようなお話もあったんで、本当に数が少ない方にちょっと負担がかかっているかなという、そういう状況なんですね。そうですか。

あと、もう一点、ちょっとお聴きしたいのが、ちょっとこう、アンケートの中で、これは行政とも絡んでくるんですが、一番最後の問16のところをちょっと拝見をしてくると、市からの要請がかなり多すぎて困るというようなことが、ここに書かれているんですが。こういうものっていうのは、あれなんですか。結構、こう、「じゃあ、これについて教えてください」、「何してください。」っていう、結局、一つ一つの文書回答が大変だということなのか、あるいはその、質問の内容がみんなが集まらなければ答えられないものなのか、そこのところの答え方の簡単、楽みたいなの。そういうのが影響しているのですか。

◎日新町町内会（田村会長） あの、文書回答はそんなにないと思うんですね。いろんな動員がかかったりですね、そういうものっていうのは、なかなか、役員自体がなかなか、ちょっと高齢と言いますかね。そういう面では、すぐ、その要望に応えられないとかっていう面ではですね、ちょっときついものがあるのかなと。

●川島委員 ちょっと、何だかよく、イメージが私、付かないんだけど。例えばもっと簡単にしてもらおうとか、例えば町内会側からのね、要望というのは何かあるんですか。「こういうふうな形にしてくれたら、やり取りが楽なのにな。」みたいなものっていうものは、どうなんですかね。

●志方委員 タブレット

●川島委員 ああ、タブレット、電子的なやりとりでね、その場でぱっと答えられるような。

●志方委員 デジタルデバイドがあるかもしれませんね。専用アプリ作ってもらって。

●谷岡会長 そうしたら、それはそれでよろしいですか。それでは、小山田先生。

●小山田副会長 非常に良い活動だと思いますね。まあ、町内会活動というよりも、市民活動ですね。町内会の足腰が弱ってくると、どうしても求められるものがあると、担い手がこうやって変わっていくという事例だというふうに思います。

キーワードがそれぞれ違うんですね。「自主的に。」とか「頼まれてやっている。」とか。それから、「楽しんでいる。」とか、「苦しみながらやっている。」っていう、町内会活動とキーワードが全然違う。ただね、社会への、市民へのお役立ちということではね、両方とも同じなんです。町内会活動も、このフィールドサポーターもね。ですから、これ、うまくマッチングしながら、ずっと継続していただければなと思いますね。

夏のTシャツだけだと寒いんで、どうしても。冬のジャンパーもね、これ、予算を措置してもらってね、続けられたらいいというふうに思います。

●谷岡会長 それでは、時間になりましたので、質疑は終了したいと思います。

日新町町内会様、どうもありがとうございました。

(2) その他

●谷岡会長 それでは、会議 (2) その他について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい。事務局からその他ということで説明させていただきます。

会議の参考資料ということで、今、お配りしていた各町内会さんのアンケート調査とかですね、総会議案の一番後ろの方にクリップ留めしてある資料の一番後ろの方の資料をちょっと御覧をいただきたいのですけれども。

2種類ございまして、一つ目が「苫小牧市協働のまちづくりセミナーの開催について（御案内）」というホッチキス留めで3枚になっている資料でですね、もう一つが「市職員研修会 市民との協働のまちづくりの開催について」という資料、ございますでしょうか。

こちらの資料なんですけれども、まず、「苫小牧市協働のまちづくりセミナー」の方は、市民の皆様を対象としたセミナーの開催についてのお知らせを各町内会様へも送付させていただいたときの資料になっております。内容といたしましては、町内会活動についての現状分析ですとか、魅力ある町内会活動を実現するための課題形成や実践方法について、ワークショップ形式により考えるといった内容になっております。

資料を見ていただいて、ちょっとお気付きかもしれないんですけれども、実は、小山田副会長の方に講師をお願いしております。来月の26日、木曜日の午後1時から5時まで、美術博物館の方で開催をする予定となっております。11月号の広報とまこまいの方でもお知らせいたしますけれども、町内会活動に関するセミナーということでございますので、各町内会さんにもお知らせさせていただいたということになります。

ぜひ、委員の皆様にもですね、御参加いただければと思っておりますので。申込みの方が重要となっておりますので、もし、参加いただけるという場合は、私の方まで御連絡をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もう一つの資料の方は、「市職員研修会の開催について」ということで、こちらは市の職員を対象として行う研修会の概要について書かれた資料になっておりますけれども、先ほ

どの市民向けセミナーと同様にですね、ワークショップを通じて市民との協働のまちづくりを考える研修会ということになっておりまして、参考までに、今回、資料の方を配布させていただきました。

次回の第4回市民自治推進会議なんですけれども、今、お話をさせていただきました市民向けセミナーとですね、市職員研修会。こちらの開催結果の報告などを行いながら、進めていきたいと考えております。

開催予定日ですけれども、12月の下旬から1月中の開催を予定しているんですけれども、まあ、ちょっと年末になってくるとなかなか都合、付きづらいと考えておりますので、1月中の開催にはなろうかと、今、考えてはおります。開催予定日の方は決まりましたら、また、改めてお知らせさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からは、以上です。

●谷岡会長 それでは、これで本日の会議を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

3 閉会